



読書活動への扉を開く！

No. R6-3

桑村小学校 令和6年5月8日 文責：関口 直

詩の魅力について

保護者の感想より

校長先生のおすすめしてくださった曲（GIFT）を改めて聞き、聞き手や伝えたいことがスッと入ってくるように感じました。日々あわただしく過ぎていく中で、「読書」を通して子どもと向き合う時間を大切にしていきたいと思いました。

自分は、どんな曲もメロディーだけでなく、歌詞をしっかりと読み取りながら聴くのが好きです。詩は、小説などと違い、限られた言葉の中に作者のいろんな思いが込められていて、それを想像したり、自分の気持ちと重ね合わせたりしています。人によって解釈や捉え方が違うのも、詩の魅力です。たとえそれが、AKB48が歌う歌謡曲だとしても心に残る詩はあります。「365日の紙ヒコーキ」

作詞はあの秋元康。「人生は紙ヒコーキ 願い乗せて飛んでいくよ 風の中を力の限りただ進むだけ その距離を競うより どう飛んだか どこを飛んだのか それが一番大切なんだ さあ心のままに 365日」よく言われることですが、結果より過程が大事だということだと思います。私は、教育においては、それでも結果は大事だと思っています。結果にこだわることによってモチベーションは高まります。しかし、親や教師は、そこに至るまでの子どもの努力なり、取り組みの様子なりをどのように価値付け、次への意欲につなげられるかも、結果と同様に大事にしていく必要があります。特に数値による成果にこだわりすぎると、学ぶことの楽しさは学べないどころか、学びの放棄につながってしまうと考えています。こんなことを考えるきっかけを与えてくれるという意味でも、「365日の紙ヒコーキ」は自分に影響を与えてくれた歌です。

自分に影響力のあった詩ということで言えば、「雨にも負けず」です。小学校の時、担任の先生に暗記させられました。「銀河鉄道の夜」や「注文の多い料理店」で有名な宮沢賢治の詩です。私が大学生の頃、宮沢賢治は実は、ある宗教の熱心な信者で、この「雨にも負けず」は、仏教と深く関わりがあることを知りました。お釈迦様が出家するきっかけになったと言われる四門出遊（しもんしゅつゆう）のエピソードです。恵まれた生活に不信を感じる若き日のお釈迦様が城の外へと散策に出た時のこと、東の門から出ると醜い老人、別の日に南の門から出ると今度は病人、また西の門から出ると死人を運ぶ葬列に、それぞれ出会って強いショックを受けます。そして最後に北の門から出た時に、出家の修行僧に出会い、その清らかなたたずまいに胸を打たれ、出家を決意したというお話です。「雨にも負けず」は、自らは質素に、人に対しては最大限尽くすという仏教の「菩薩」の生き方を詩にしています。そんな滅私奉公の姿が人の心を動かすのだと思います。

宮沢賢治の詩といえは、早くに病気で失う妹への思いをつづった詩「永訣の朝」もとても印象に残っています。自分も妹がいるので、その気持ちが伝わってきます。また、最近亡くなられた星野富弘さんの詩もとてもいいのですが、あれは素敵な花の絵とともにまさに鑑賞する詩です。このように詩にはいろいろな味わい方があります。みなさんは、どんな詩が好きでしょうか？



「雨にも負けず」

雨にも負けず 風にも負けず
雪にも夏の暑さにも負けぬ 丈夫なからだを持ち
欲は無く 決していかからず いつも静かに笑っている
一日に玄米四合と 味噌と少しの野菜を食べ
あらゆる事を自分を勘定に入れずに 良く見聞きし判り そして忘れず
野原の松の林の影の 小さな萱葺きの小屋に居て
東に病気の子供あれば 行って看病してやり
西に疲れた母あれば 行ってその稲の束を背負い
南に死にそうな人あれば 行って怖がらなくても良いと言い
北に喧嘩や訴訟があれば つまらないからやめろと言い
日照りのときは涙を流し 寒さの夏はオロオロ歩き
皆にデクノボーと呼ばれ 誉められもせず苦にもされず
そういう者に 私はなりたい

「永訣の朝」

※あめゆじゆとてちてけんじや→「雨雪を取ってきてください、賢治や」

けふのうちに とほくへいつてしまふわたくしのいもうとよ
みぞれがふつておもてはへんにあかるいのだ (あめゆじゆとてちてけんじや)
うすあかくいつそう陰惨(いんざん)な雲から
みぞれはびちよびちよふつてくる (あめゆじゆとてちてけんじや)
青い蓴菜(じゆんさい)のもやうのついた これらふたつのかけた陶椀(たうわん)に
おまへがたべるあめゆきをとらうとして わたくしはまがつたてつぼうだまのやうに
このくらいみぞれのなかに飛びだした (あめゆじゆとてちてけんじや)
蒼鉛(さうえん)いろの暗い雲から みぞれはびちよびちよ沈んでくる
ああとし子
死ぬといふいまごろになつて わたくしをいつしやうあかるくするために
こんなさつぱりした雪のひとわんを おまへはわたくしにたのんだのだ
ありがたうわたくしのけなげないもうとよ
わたくしもまつすぐにすすんでいくから (あめゆじゆとてちてけんじや)
はげしいはげしい熱やあえぎのあひだから おまへはわたくしにたのんだのだ
～以下省略～